

介護者である山中浩之さんが認知症の母を介護する様子を綴った書籍だが、類書とはひと味違う。母親を介護するエピソードを一つ書き上げること、NPO法人「となりのかいこ」代表理事・川内潤さんがそれを読む。読み終えると、2人で対話を始める。「山中さん、大変でしたね」「川内さん、こんな対応でよかったんでしょうか」。そんな振り返りを、会話文のまま掲載。親の不審行動を理解しようと頑張る、だが理解できても子の苦しみは変わらない、であれば距

「親不孝介護 距離を取るからうまくいく」

山中浩之 川内潤 共著

離を取り公的支援に頼りなさい、と川内さんは説く。

「となりのかいこ」は、企業などを対象に介護支援コンサルティングを行う団体。相談員が企業を訪れ、従業員と個別相談を行う。介護離職の回避に繋がるので、導入する企業が増えているという。

限られた時間や人数で、家族が家族を介護するのは困難であり、第三者が介入することで成り立つ。しかし、多くの介護者は孤立を深め、虐待へ向かうこともある。そんな中、誰かが自分のエピソードを読み、話しかけてくれたらどれだけ嬉しいことか。介護者に声を上げるきっかけをくれる一冊だ。

1760円(税込)

(日経BP) 06・6811・8000)

